

ハバネロ友の会会員様

暑さも盛りを迎えておりますが、皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。ここ京都・亀岡は朝晩は山の風が通りますので、比較的涼しく過ごさせていただいております。

ハバネロ含む唐辛子も、先日の長雨で根が傷んで生育が芳しくなかったですが、ここへ来て酷暑の影響もあり、ずいぶんと株も成長して、通常通り以上のボリュームなり、収穫も始まりだしましたので、ひと安心と言ったところでしょうか。

ハバネロ友の会事務局

トピックス

- ☆ 新情報や季節の話題イロイロ。
- ☆ 世界のお話いろいろ。
- ☆ メール会員募集中です。

ハバネロ栽培報告

目次:

究極の万能ハバネロソース	2
事務局よりお知らせ	3
バン格拉ディッシュからの便り	4
MUTTSUNN通信	5
児島さん投稿	6
ハバネロ料理	12



今の予想では、今月の中旬から本格的な収穫がはじめられると思っています。どれもこんな感じで育っていますので、今年は相当数の収穫が見込めると思います。

写真見ていただくだけで、もう言葉は要りませんね。

篠ファームハバネロ担当

究極の万能ハバネロソース売れています。



4月8日に売り出しました、ハバネロオリジナルソース「篠ソース」はお蔭様で、全国に広がりつつあります。特に東京方面の人気が高く、イタリアンレストランを中心に、取り扱って頂けるようになって来ました。

篠ソース取扱店 * <http://www.shinofarm.jp/shops/index.html>

どんな料理にも使えて美味しいということは、従来のソースとは全く違う食感です。是非一度ご賞味ください。



お好み焼きとの相性バッチリ！



オムライスにもとてもよく合います。



バンバンジーはこれがないとしまらない。

「ハバネロメルマガ会員」ご参加お勧めください。

ハバネロに関心を持たれておられる方がお近くにおられましたら是非お誘いください。申込みは簡単で、ホームページより申込みに必要事項をご記入頂き、事務局へお送りしていただくだけで登録完了です。また、いつでも退会出来ますのでお気軽にお申込みください。

メルマガ会員の方には特典も考えております。

http://www.shinofarm.jp/habanero_tomonokai.htm

会報誌の郵送ご希望の方は1年間分の郵送料と印刷代(モノクロ)・封筒代2,000円を申し受けますのでご理解のほどよろしく願いいたします。送金は郵便振替(払込取扱票)」にてお願いいたします。

*口座は 00900-7-122727 ハバネロ友の会です。(振込み手数料はご負担ください。)

ハバネロ友の会事務局

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

ご自分の会社やお店の宣伝・自己紹介など、案内したい内容がありまましたら投稿してください。

行政関係の方もどんどん投稿してください。

ハバネロ以外でも全く問題ありませんので、会報誌を活用していただけたら幸いです。

原稿の締め切りは、毎月5日までお送りいただけましたら幸いです。

当月の10日頃をめどに、会報誌に掲載して配信致します。

原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

ハバネロ友の会事務局

「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。

匿名希望の方は「匿名希望」と伝えてください。

ハバネロ友の会事務局

バングラデシュからの便り 8月号

バングラデシュには、ダワットと呼ばれる、人を招待して食事をする習慣がある。外国人が珍しい地域では、ドアの隙間や後ろの方で子供や女性が、私が食べているのを見ている。とても食べづらい。そして、通常その家の母親がご飯をよそうのだが、これが結構つらい。

皿に山盛りのご飯を盛られ、何種類かのカレーをその上かけられる。やっと食べきったかと思うとおかわりを勧められる。一度断っても、あと少しだけ食べなさいと、茶碗一杯分のご飯を盛られ、そのご飯に見合った分のカレーがかけられる。残しては悪いと必死に食べる。

やっと食べ終わると、もう一杯食べるように無理強いされる。何度断ってもしつこく勧められるが、食べられないものは食べられない。両手で皿を覆い、ご飯を追加されないように防御するが、ひどい場合はその上からご飯を盛られる。

盛られてしまったご飯を残すわけにはいかず、何も考えずひたすら腹の中に入れる。何度もダメかと思いきや諦めそうになるが、それでもせつかく招待された食事を残すわけにはいかないと思うのは、他人を思いやる心を持つ日本人の性か。3杯目も何とか腹の中に収め、一息ついて油断していると、4杯目を盛る準備をしているではないか！これ以上はもう無理だ。体の後ろに皿を持って隠し、断固として拒否する。そこまできると向こうも諦め、やっとここでご飯の時間が終わる。

食べ過ぎで動けなくなりソファで休んでいると、果物・ビスケット・甘味が出され、たくさん食べなさいと言う。

どこに行ってもこんな感じなので、ダワットに苦しむ日本人は多い。極力誘いをお断りし、自分の食べたい分だけ食べられる自宅で食事するようにしている。

Ryo Takeuchi



MUTTSUNN通信



歩きながら息を殺し、耳をすまし、目をきょろきょろ動かします。自然の中に上手にかくれている動物達を見つけるためです。まるで宝探しです。野鳥は鮮やかな青や赤を身にまとい、ワシが群れを成して飛び交い、猿がパキパキと音を立てて竹やぶで朝食をとり、ハチドリは花の周りで踊っています。普段は鳥なんてまったく興味が無いにもかかわらず野鳥の会の会員のようにカメラを構えて木々をじっくり見渡します。土壁を食べる鳥を見るためには朝4時にだって起きられます。先日ジャングルツアーに参加してきました。

クスコといえばマチュピチュですが、実はジャングルツアーは乗馬、ラフティング、遺跡めぐりと数ある観光ツアーの中でも目玉商品です。意気揚々と初ジャングルに期待していると、まずガイドから動物が見られるかどうかは運次第だ、まったく見られないときもあると念を押され、みんな必死に探し始めることに。動物に逃げられないようにとほとんどしゃべらないため3泊4日ツアーの大半は沈黙の中過ごすことになりました。

夜は電気が来なくてロウソクの灯りの中で夕食、川には蛍が飛んでいてロマンチックだねなんて言っていると「寒い！暗い！怖い！」と絶叫しながら懐中電灯一つの暗闇の中で水シャワーを浴びるはめに・・・そして最後のお楽しみキャンプファイヤーでは途中からまさかの土砂降り。ツアー終了後の一言はもちろん「楽しかったね」旅行に後悔は認められません。払い戻しできませんからね。悲劇は笑いに換えてポジティブな記憶を残すのみです。

Mutsumi

写真「気味の悪いナマケモノ」「かわいいカピバラ」

ハバネロ通信 8月号

児嶋きよみ(Office Com Junto主宰)

2012年7月のGlobal Session Reportより

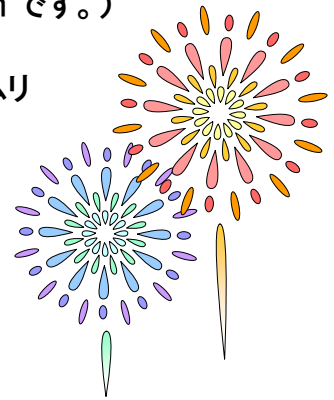
7月7日(土)10:30~12:00 ガレリア3階会議室で、Kim-Chi DoさんをGuest speakerとしてお招きする最後になりましたが、充実したSessionを持つことができました。Kim-Chiさんもこれが最後ではなく、必ずまた、会いに日本に帰って来るとおっしゃっていました。(7月31日に帰国されました。メールアドレスは、kimchido621@gmail.com です。)

さて、タイトルのBullies and Bystanders(いじめと傍観者)は、なんとタイムリーであったことでしょう。でも、0市の事件がMediaに掲載される以前にKim-Chiさんから、原稿を受け取っていましたのを、付け加えておきたいと思います。

Coordinator: 船越 茂さん

(2010年11月から参加・16回目・初めてのCoordinatorです。)

参加者: 12名



船越(Co): この記事の中にある、Dan Savageさんによる”It’s Gets Better”キャンペーン(若い人々の命を救い、向上させることを目的としている)について知っていましたか?

「Savageは、支援者が若者に対して、いかに悪いことがあっても、また、今までにどのようにおそろしいことがあったとしても、だんだん良くなるよと言う方法を創出したいと願っていた。」(7月テキストの訳)

IK: 京都市内のNPOでもこのようなキャンペーンはある。政府からというのではなく、小さいグループからだされている。あまり大きな声で言われているこのようなキャンペーンは、知らない。

Kim: これも最初は小さなキャンペーンでした。インターネットで知らされ、大きな話題になっていった。私もどこかで読んだ覚えがある。

IK: 0市のケースだが、全校生徒にアンケートをしたと言っているが、このようなことをしたと、他のケースで聞いたことがない。これは、今までにない大きな変化だと思う。

OM: このようなアンケートの事実があったのに、市の教育委員会は何も取り上げていなかったのだろうか。いじめ・自殺の練習をさせられたり、教師もそれを知らなかったとしても、アンケートを読めばわかることがある。

Kim: このようなことが繰り返されるのは、悲しいですね。

Co: 次のパラグラフをKim-Chiさん読んでください。

Co: Columbine High SchoolのMassacreの事件というのは?

Kim: 1999年にコロラド州の二人の少年が、学校でいじめを受けていてその仕返しをしよう と銃を乱射し、数十人の人が死んだ事件があった。その後少年も死んだという事件のことだと思う。

どのようないじめがあったかを調査があり、その後、アメリカの高校は大きく変化した。たとえば、いじめを受けたり、見たり、知るとすぐさま、「すぐ校長のところへ行け」と言われ、すぐさま、対応をする必要があると言われるようになった。

(コロンバイン高校虐殺事件・コロラド州・アメリカwebsiteから)

死亡者15名(教員1名、容疑者2名を含む学生14名) 負傷者(24名)

Co: <コロンバイン高校の事件についての英文を用意し、Kim-Chiさんに読んでもらった。

それでもわかりにくいこともあると思い、日本語で書かれた、コロンバイン高校虐殺事件の犯人のメッセージが犯行前にwebsiteに出ていたのを、日本語に訳した文を朗読。>

第2と第3 パラグラフから

<Dan のキャンペーンは、いじめに対して、人々に声を上げようというもので、防御し、がまんをしないということの意味する。もし、いじめを受けたら、おとなの支援がなされ、決してひとりではないということ子ども達に知らせることを狙いとしている。>

Co:第4 パラグラフを読んでください。

「The atmosphere in the Japanese classroom, however, is very different. It's not uncommon for unabased instance of bullying in the classroom to go to completely ignored by both teachers and students, and I've yet to see any consistent form of discipline happen when cruelty occurs.」

「unabased instance of bullying」とは、どういう意味ですか？

Kim-Chi:教室の中で、2人の男の子がいて、一人がもう一人にひどいことをするか、ひどいことを言っている、他の先生や生徒は無視していて、そのままの状態を続けるとうことは、よくあることだという意味です。それと、ひどいことが起こったとしてもそれに対するかならず対応すべき教条などというものを今まで見たことがないです。

IK: 昔、自分が生徒だった時にもよく似たことがあった。いやだと思ふことは言うことが必要だ。自分で言えない場合は、まわりの人は、特に先生は言う必要がある。長い時間、生徒は学校にいるのだから、もし、先生が言わなかったら、誰も言えない。子どもでもこの先生は良いとか悪いとか知っている。銃は使わずに、やられたら、やりかえすことも必要だ。

FM:銃の代わりに、昔は消しゴムでやっていた。最近では、携帯メールやコンピューターで言うのかもしれない。

Kim:教室でいじめを見ていてどうして、だまっているのかわからない。

IK:自分の方がいじめられるのが怖いから、言わないのだろう。もし言ったらどうなるか？

Kim:先生に言ったら？

IK:子ども達にとって、先生は、皆がフェアというわけではない。先生は勧告するが、子どもは自分でやらなければ。

Kim:先生が無視するのは、なぜ？

FM:時々、教師は無視する。

Kim:もし、先生が救わなければ、生徒はどこに逃げ道があるのか？

IK:環境を変えなければならぬ。学校を変えることも難しい。みんな弱い。

Kim:クラスの中でいじめたら、ストップさせなければならぬと思う。

IK:いじめた側の両親は、あまり社会的には良くない場合が多いのではないか？

KK:いじめるのが悪い親ばかりの子どもではないし、その方が問題だと思う。

昔、小学校を3回父の仕事の都合で転校したが、その、2番目の学校に転校してしばらくしたら、ランドセルを隠されたことがあった。

その時は私自身はだれが隠したのか、はっきりとは知らなかったけれど、親は知っていたみたいでずいぶん経ってから聞いた。それ以後、そのようなことはほとんど無くなったけれど、担任の先生が家庭訪問してきて、「このことは、がまんして」と言った。その時、10才くらいだったのに、「この先生はだめだ。」と思い、50年後の今もよく覚えている。

OM:ニワトリが10羽いると、1羽が弱いといじめられる。いじめは人間である限りある。

KK:アンケートを全員に採ったのは革新的なことだったのに、どうして結果を分析して使わなかったのか？事件が起こったこと自体が問題とする教育委員会の体質かもしれない。OM:同じ県のT町のケースもある。

Kim:日本には厳しい社会的なルールもある。日本語の中にも敬語というルールがあるし。

IK:英語は、フェアですね。

Kim:最初にもどると、「自分の声を上げて言いなさい。ちがってもいいと。」いうキャンペーンだと思う。

KK:それを知らせるキャンペーンをしなければならないというわけですね。

Kim:アメリカの友人がパーティーに行くと、いじめのような態度を取った男がいて、ハーモニーをくずすと思ったけれど、ちゃんと声を上げたことがある。

Kim-Chiさんが今回で最後なので、このあとは、今回の参加者の一言ずつのあいさつということになりました。

KT:最近、八ヶ月の孫の世話などで忙しくて年に数回参加するだけでしたが、いつも届く案内やレポートを読むのを楽しんで来ました。このセッションはとても好きです。

今日のセッションでは、「自分から話をするのが大切」と言われたように思います。

NT:Kim-Chiさんとは、3回いっしょにセッションをしたと思います。月に1回だけなのにとても刺激的です。もともと5人家族だったが今は、一人で住んでいます。夫が亡くなり、子ども達も独立し、自分の生活をどうやって楽しもうかと考え始め、だんだんやろうという気になって来ました。夫の死後彼の車を彼自身のように思い、7年間も乗っていましたが、今回やっと手放す気になり、新しい車を買いました。

OM:Kim-Chiさんがいなくなると寂しいです。初めてお会いしたとき、コリアンかと思いましたが、ベトナム系と知り、またびっくり。とてもおもしろいし、タイムリーなエッセーをありがとう。また帰って来てください。

KS:遅れてすみません。この会に出られてとてもうれしいです。また、お会いしたいです。

IK:感謝しています。あまり頻繁にはこれなかったけれど、最初にお会いしたときから、American・Asianの雰囲気を持っていらっしやった。それと、オクラホマから来られているのでとてもうれしいです。アメリカの友人は、「あまりオクラホマにいたことを言わない方がいいよ。」なんて言う人もいますが、たぶん田舎と思われるからという意味でしょうね。

MS:どこの国にも美しいことばがあります。イタリアは、アルベンチ・ハワイは、アロハ・日本はさよならなど。

KT:いつもあなたとのセッションを楽しんでいました。5年前に退職後、あまり英語を話す機会がなかったのですが、ここで月に1回のglobalsessionに参加ができてうれしいです。孫が小学校に入ってから、最近はいさよならから英語に触れられて、もうABCを学び始めたのでこの孫と英語で話すのが楽しみです。

MM:Kim-Chiさんの声が好きです。インテリアコーディネーターが本職です。

(ラオスの織物を指導し、輸入を手がけられていて、フェアトレードの製品の売り上げでラオスに学校を1校建築してしまった方です。)

Kim-Chi:このglobalsessionに何度も参加できてとてもうれしかったです。日本人はとても正直だし、街もきれいで気持ちがいいです。日本を離れることはとても寂しいです。特に、日本の友人達と離れるのが。

HS:いつもありがとうございました。また、是非日本に帰って来て仕事をしてください。

KK:Kim-Chiさんだったら、きっと日本でもどこでも仕事ができると思うけれども、最近ドイツに行かれたのは、ドイツでの仕事の可能性もあるというわけですか？

Kim-Chi:そうです。大体の人が英語を話すのでいいですよ。

KK:一度日本を離れて、じっくり休むのもいいですが、きっとまた日本に帰って来てくださいね。みんな待っていますよ。

参加者全員で、花かごをプレゼントしました。花屋さんの「花ママ」さんのすてきな淡い色のカーネーションがいっぱい入っていて、Kim-Chiさんによくお似合いです。その後ギャラリー一階のレストランで10名がさよならランチパーティーを楽しみました。ゆっくりお話ができました。また、お会いしましょう！と言って。

Bullies and Bystanders

By Kim-Chi Do

After a spate of teenage suicides that were the cause of intense bullying, many Americans made conscious decisions to take a stand against bullying in schools. Quite recently, a popular columnist and gay rights activist named Dan Savage formed the “It Gets Better” campaign, which aimed at saving and improving the lives of young people. Savage wanted to create a way for supporters to tell young people that however bad things were-- whatever horrible things they were going through--that *it gets better*. The goal was to start a movement to let bullied teenagers know that suicide isn't the answer, there are options, and that bullying doesn't last forever in one's life. He created a video message to spread the word, and more and more followed his lead, thus creating this massive effort to speak up against teenage bullying.

Although the project began as more of a movement to empower young gay youth, it's representative of something more general. The campaign works by telling people to speak up against bullying, to protest, and not tolerate it. It aims to let kids know that if they are being bullied, they have support from adults and they are not alone. Essentially, this campaign moved people to stand up, be aware, and speak up against cruel behavior.

Japan is no stranger to suicides that stem from teenage cruelty. Bullying exists everywhere in the world, and all of it comes from a need to conform. It's always the kids who are "different" who get picked on. It seems the most obvious way to stop bullying is for parents to educate their children about proper behavior at home. However, most bullying commonly occurs at school, so intervention at the school level is important. Especially after the Columbine High School massacre, American schools took great measures to stop and prevent bullying. Any kind of bullying behavior would never be tolerated inside the classroom or within sight of any person of authority.

The atmosphere in the Japanese classroom, however, is very different. It's not uncommon for unabashed instances of bullying in the classroom to go completely ignored by both teachers and students, and I've yet to see any consistent form of discipline happen when cruelty occurs. Our children spend so many of their hours at school. Surely teachers play a big role in helping to guide an atmosphere where students treat each other with respect. If the adults in charge of disciplining bad behavior ignore bullying and cruelty, it only provides a message that mistreating others is ok. Furthermore, students never have a voice in the matter, and instead act as bystanders. If a student can't escape being harassed by a bully inside a supposedly safe classroom, where does a child ever get sanctuary?

Strict rules and a homogenous society breed conformity. Breaking rules is risky, and I can see how it's important to maintain group harmony. However, if a child is brought up never withdraw from the group, how do they ever learn to think for themselves and be individuals? Following along with the circumstances and not becoming involved is easy, but when unacceptable social behavior happens, the right thing to do is speak up even if it may mean dissenting from the group. Showing courage to speak up against cruelty and bad behavior will always provide a far better example for any crowd.

ご案内

夏のフェスタ@ゲストハウス藤原邸

The Fujiwara Guest House

Summer Party

JR嵯峨野線 京都発**1:37** 八木駅着**2:12**

8/18 2:30~5:30 at The Guest House

6:30~9:00 at Iji park area summer festa

What?

夏のあそびや夏のたべものを楽しみましょう

A summer themed party with: ながしそうめん
Nagashi Somen

(catching somen noodles as they slide down a bamboo slide.) すいかわり

suika wari(breaking a watermelon while blindfolded)

花火 (公園で) fireworks at Iji park

Who?

だれが? だれでも

Anyone

Please RSVP to Kiyomi Kojima

Email:kiyomi-kojima@gaia.eonet.ne.jp

TEL:090-5675-6572

Where?

どこで? JR嵯峨野線 八木駅まで

The Fujiwara Guest House (旭町 印地)

Miya-no-moto 2, Asahi-cho, Kameoka

To: Yagi Station / From Kyoto 30 minutes By JR Sagano Line

TEL:0771-25-3067 TEL:**0771-20-7972(On the day only)**

From Yagi station

1. **By Taxi** to The Fujiwara Guest House

(旭町 印地: あさひちょう いじ)

2. Transportation to and from Yagi station can be arranged, **if you ask ahead of time**

ハバネロ友の会 事務局

〒621-0008
京都府亀岡市馬路町狐瀬20-1
篠ファーム内

info@kyoto-habanero.com

Fax 0771-24-7885



■「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。
匿名希望の方は「匿名希望」と伝えてください。

■会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

自分のところの会社やお店の宣伝など、案内したい内容がありまましたら是非、投稿してください。行政関係の方もどんどん投稿してください。

ハバネロ以外でも全然問題ありませんので、活用していただけたら幸いです。

原稿の締め切りは、毎月末までに頂きました原稿は、翌月の10日頃をめどに、会報誌に掲載して配信致します。

原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

ハバネロ友の会事務局

ハバネロ料理コーナー

ブルーベリーソース

材 料 生のブルーベリー
砂糖(ブルーベリーと同じ量) 赤ワイン 水

作り方

ブルーベリーとお砂糖(ブルーベリーと同じ量)を入れ、水・ワインを少し入れ火にかける。
混ぜながら弱火で沸騰までまぜて火を通していく。
ふかないよに気をつけてまぜて、砂糖が溶けてすべてに火か通るまで煮詰めていく。
ブルーベリーの形を残して煮詰めておく。

